

JA兵庫南

加古川市

委託先：就労継続支援A型・B型事業所

主な作業内容
六条大麦の茎の加工・選別



いち早く農福連携のマッチングに着手 グッドデザイン賞の受賞が利用者の励みに

JA兵庫南では2019年に「アグリ支援課」を立ち上げ、農家の高齢化や担い手不足に対応するため、除草や片付け、野菜の収穫や袋詰め作業など、管内の生産者と福祉事業所のマッチングによる農福連携の取組を進めています。2020年には東播磨地域が一大生産地となっている六条大麦の茎（麦わら）をプラスチックの代替素材として活用する「大麦ストロープロジェクト」がスタート。加工にあたり、丁寧な手作業を担える人材を農福連携で実績のあるA型とB型の2カ所の福祉事業所に相談。支援員が利用者の個性を見極めな

がら、麦わらの外皮むき、茎の裁断、長さや色の選別などの加工を1日約4時間、4～5人に作業を委託しています。

「六条大麦ストロー」は、障害者の社会参加、脱プラスチック、地域資源の有効活用という意味と、完成度の高いパッケージ商品が評価され、「2022年度グッドデザイン賞」を受賞。また、ストローの規格に合わない茎は北欧の伝統工芸「ヒンメリ」の材料として商品化。作品講習会の実施や学校の地域資源教材として用いられるなど、作業に取り組む利用者や支援員の大きな励みになっています。



作業上の工夫点や報酬について



六条大麦ストロー

作業に集中できる広い屋内スペースを確保。乾燥させた麦の茎の外皮をむき、ストローとして使える茎の節と節の間に18cm～22cmになるように裁断します。目で確認できるように、茎を当てて切りやすくした採寸箱を作って活用しています。作業期間は6～7月の約45日間。報酬は時間給制を採用しています。



（左から）営農経済部アグリ支援課の
佐々木令樹さん、長谷川広光さん

（2025年1月取材）